

スポーツ鍼灸科 SK21A SK22A SK23A

分野	教育内容	必修	授 業 科 目	区分	単位	科目	1 年次		2 年次		3 年次	
		選択			数		時間	前	後	前	後	前
基礎	科学的思考の 基盤 人間と生活	必修	スポーツ健康学Ⅰ(保健体育)	講義	4	60	30	30				
		必修	スポーツ健康学Ⅱ(生物学)	講義	4	60	30	30				
		必修	スポーツ健康学Ⅲ(栄養学)	講義	2	30	30					
		必修	スポーツ健康学Ⅳ(コミュニケーション)	講義	2	30		30				
		必修	スポーツ健康学Ⅴ(体力学)	講義	2	30		30				
専門基礎	人体の構造と 機能	必修	解剖学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	解剖学Ⅱ	講義	2	60			30	30		
		必修	生理学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	生理学Ⅱ	講義	2	60			30	30		
		必修	解剖生理学Ⅰ	講義	1	30	15	15				
		必修	解剖生理学Ⅱ	講義	1	30			15	15		
		必修	運動学	講義	2	30				30		
	疾病の成り立 ち、予防及び 回復の促進	必修	臨床医学総論	講義	4	60			30	30		
		必修	臨床医学各論Ⅰ	講義	2	60			30	30		
		必修	臨床医学各論Ⅱ	講義	2	60					30	30
		必修	病理学概論	講義	2	60			30	30		
	保健医療福祉とは 及びきゅうの理念	必修	リハビリテーション医学	講義	2	30			30			
		必修	衛生学・公衆衛生学	講義	1	30	30					
		必修	医療概論(職業倫理)	講義	1	15					15	
		必修	関係法規(社会保障制度)	講義	1	15					15	
基礎はりきゅう 学	必修	基礎はりきゅう学Ⅰ(東洋医学概論Ⅰ)	講義	2	60	30	30					
	必修	基礎はりきゅう学Ⅱ(歴史)	講義	1	30	15	15					
	必修	基礎はりきゅう学Ⅲ(経絡経穴概論)	講義	2	60	30	30					
	必修	基礎はりきゅう学Ⅳ	講義	1	30	15	15					
	必修	基礎はりきゅう学Ⅴ(東洋医学概論Ⅱ)	講義	2	60			30	30			
	必修	基礎はりきゅう学Ⅵ	講義	1	30			15	15			
	臨床はりきゅう 学	必修	臨床はりきゅう学Ⅰ(東洋医学臨床論Ⅰ)	講義	2	60			30	30		
		必修	臨床はりきゅう学Ⅱ	講義	1	30			15	15		
		必修	臨床はりきゅう学Ⅲ(東洋医学臨床論Ⅱ)	講義	2	60					30	30
		必修	臨床はりきゅう学Ⅳ	講義	1	30					15	15
		必修	臨床はりきゅう学Ⅴ(東洋医学臨床論Ⅲ)	講義	2	60					30	30
		必修	臨床はりきゅう学Ⅵ	講義	1	30					15	15
		必修	臨床はりきゅう学Ⅶ(東洋医学臨床論Ⅳ)	講義	2	60					30	30
	社会はりきゅう学	必修	臨床はりきゅう学Ⅷ(はりきゅう理論)	講義	2	60					30	30
必修		社会はりきゅう学	講義	2	30					30		
専門	実習	必修	はりきゅう実技Ⅰ	実技	2	60	30	30				
		必修	はりきゅう実技Ⅱ	実技	2	60	30	30				
		必修	はりきゅう実技Ⅲ(臨床実習前施術実技試験)	実技(集中)	2	60	30	30				
		必修	はりきゅう実技Ⅳ	実技	2	60			30	30		
		必修	はりきゅう実技Ⅴ	実技	2	60			30	30		
		必修	はりきゅう実技Ⅵ	実技	2	60			30	30		
		必修	はりきゅう実技Ⅶ	実技	2	60					30	30
		必修	はりきゅう実技Ⅷ	実技	2	60					30	30
	臨床実習	必修	はりきゅう臨床実習Ⅰ	実技(集中)	1	45		45				
		必修	はりきゅう臨床実習Ⅱ	実技(集中)	1	45			45			
		必修	はりきゅう臨床実習Ⅲ	実技(集中)	1	45				45		
		必修	はりきゅう臨床実習Ⅳ	実技(集中)	1	45					45	
	総合領域	必修	総合領域Ⅰ(生体観察)	講義	2	60	30	30				
		必修	総合領域Ⅱ(病態生理学)	講義	2	60			30	30		
		必修	総合領域Ⅲ	講義	2	60					30	30
		必修	総合領域Ⅳ	講義	1	30					15	15
		必修	総合領域Ⅴ	講義	2	60					30	30
		必修	総合領域Ⅵ	講義	1	30					30	
必修		総合領域Ⅶ	講義	1	30						30	
必修		総合領域Ⅷ	講義	1	30						30	
合計					99	2655	405	450	450	450	450	450

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学Ⅱ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

- ・各臓器の構造を学習する。
- ・内臓の位置関係や血管分布を確認する。

2 到達目標

- ・脳神経，主要な脊髄神経を覚え，その機能を説明できる。
- ・動脈の名称，主根と分枝を覚え，図示できる。
- ・内臓の構造を理解し，特徴を説明できる。

3 授業の方法

- ・教科書と配布プリントをもとにして，講義を実施する。
- ・授業の始めに，前回の学習内容の小テストを毎回実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書，授業資料での予習・復習を行うこと。

7 使用教材，教具

「解剖学 第2版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

臓器について深く学習していきます。運動器からは，分野が離れますが，体表と体内の位置関係を考え，人体構造をイメージすることができるよう学習しましょう。神経や血管は，国家試験でも細かく問われますので，根気強く暗記しましょう。

9 教員氏名（ 樋口 裕次郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目表に戻る

科目名 (解剖学Ⅱ)

回数	授業内容
1	神経系 (1) 中枢神経 総論
2	神経系 (2) 中枢神経 大脳
3	神経系 (3) 中枢神経 間脳, 脳幹, 小脳
4	神経系 (4) 中枢神経 脊髄
5	神経系 (5) 末梢神経 脳神経
6	神経系 (6) 末梢神経 脊髄神経①
7	神経系 (7) 末梢神経 脊髄神経②
8	神経系 (8) 末梢神経 自律神経
9	感覚器系 (1) 視覚器
10	循環器系 (2) 聴覚・平衡覚器, 味覚器, 嗅覚器
11	循環器系 (1) 脈管, 心臓
2	循環器系 (2) 体循環の動脈系①
13	循環器系 (3) 体循環の動脈系②
14	前期まとめ
15	前期試験
16	答案返却および解説
17	循環器系 (4) 体循環の静脈系, 胎児循環
18	循環器系 (5) 胎児循環
19	循環器系 (6) リンパ
20	呼吸器系 (1)
21	消化器系 (1) 口腔, 咽頭, 食道
22	消化器系 (2) 胃, 小腸, 大腸
23	消化器系 (3) 付属腺
24	泌尿器系 (1)
25	生殖器系 (1) 男性生殖器
26	生殖器系 (2) 女性生殖器
27	生殖器系 (3) 受精と発生
28	内分泌系 (1) 内分泌器官
29	内分泌系 (2) 受精と発生
30	後期まとめ
31	後期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生理学Ⅱ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

1年生で学習した生理学Ⅰを踏まえ、生命現象（神経、筋、運動、感覚などのメカニズム）を通じて人体の機能について学んでいきます。

2 到達目標

人体の神経系や感覚器の機能を理解し、調和の取れた個体の生命現象を総合的にとらえることができる。

3 授業の方法

配布プリントを中心に、理解を深める補助として画像を用いて講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各章の学習後に小テストを実施します。毎回の復習を心がけてください。

7 使用教材、教具

「生理学」医道の日本社

「生理学インパクト」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

鍼灸治療を行っているとき「どのようなメカニズムで効果がでるのか。」と患者さんに聞かれる場面があります。生理学で人体のメカニズムを学び、そういった質問や疑問に答えられるよう、臨床に役立つ知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目表に戻る

科目名 (生理学Ⅱ)

回数	授業内容
1	第10章 神経(1) 神経系の分類 ニューロンの構造と働き
2	第10章 神経(2) 神経線維の興奮伝導
3	第10章 神経(3) シナプス伝達
4	第10章 神経(4) 神経伝達物質
5	第10章 神経(5) 反射
6	第10章 神経(6) 脊髄
7	第10章 神経(7) 伝導路
8	第10章 神経(8) 脳幹
9	第10章 神経(9) 大脳
10	第10章 神経(10) 脳脊髄液
11	第10章 神経(11) 末梢神経の分類 自律神経の概要
12	第10章 神経(12) 自律神経調節の特徴(二重支配, 拮抗支配など)
13	第10章 神経(13) 内臓の自律神経調節 自律神経反射
14	第10章 神経(14) 神経系のまとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第11章 筋(1) 骨格筋の構造と働き 筋の収縮の仕組み(興奮収縮連関)
18	第11章 筋(2) 筋のエネルギー供給の仕組み 心筋と平滑筋について
19	第12章 運動(1) 骨格筋の神経支配
20	第12章 運動(2) 運動調節(伸張反射, その他の脊髄反射)
21	第12章 運動(3) 運動調節(脳幹反射, 除脳固縮など)
22	第12章 運動(4) 錐体路系と錐体外路系 発声と言語
23	第13章 感覚(1) 感覚の分類と一般的性質
24	第13章 感覚(2) 体性感覚(表在感覚, 深部感覚), 伝導路
25	第13章 感覚(3) 痛覚
26	第13章 感覚(4) 特殊感覚(味覚, 嗅覚)
27	第13章 感覚(5) 特殊感覚(聴覚, 平衡感覚)
28	第13章 感覚(6) 特殊感覚(視覚)
29	第14章 生体の防御機構(1) 免疫
30	第14章 生体の防御機構(2) 白血球の働き
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖生理学Ⅱ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

解剖学と生理学を統合し、人体の正常な構造と機能を結び付けて考える。

2 到達目標

なぜその形なのか、機能を発揮するにはこういった形が適するのかを考え、説明できるようにになる。

3 授業の方法

教科書，配布プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内で配布した資料の復習を行うこと。

7 使用教材，教具

「生理学 第3版」 医道の日本社

「解剖学 第2版」 医道の日本社

「生理学インパクト」 医道の日本社

8 学生へのメッセージ

人体の機能を生理学，構造を解剖学で学んできました。機能と構造は，切っても切り離せない密接な関係にあります。そのため，生理学の理解によって解剖学の理解が深まることもあり，その逆もあります。基礎医学の重要性を把握し，論理的に思考できる能力を培いましょう。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目表に戻る

科目名（ 解剖生理学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	運動器系（１）運動器系とは
2	運動器系（２）全身の骨格
3	運動器系（３）全身の骨格筋
4	運動器系（４）まとめ
5	内分泌系と体温（１）内分泌系の総論
6	内分泌系と体温（２）内分泌系の各論
7	内分泌系と体温（３）体温
8	血液と免疫（１）血液
9	血液と免疫（２）生体防御機構
10	血液と免疫（３）まとめ
11	循環系（１）心臓
12	循環系（２）血管系
13	循環系（３）血管とその調節
14	循環系（４）リンパ系
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	神経系（１）神経系と神経組織
18	神経系（２）中枢神経系
19	神経系（３）末梢神経系
20	呼吸器系（１）呼吸器系の構造と機能
21	呼吸器系（２）呼吸とその調節
22	消化器系と代謝・栄養（１）消化と吸収
23	消化器系と代謝・栄養（２）代謝と栄養
24	消化器系と代謝・栄養（３）まとめ
25	泌尿器系（１）泌尿器系の構造と機能
26	泌尿器系（２）排尿
27	生殖・身体に加齢変化（１）妊娠と発生
28	生殖・身体に加齢変化（２）生体のリズムと加齢変化
29	感覚器系（１）視覚，聴覚，平衡感覚
30	感覚器系（２）味覚，嗅覚，痛覚
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 運動学 ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

解剖学，生理学を発展させ，人体の運動機能を詳しく学ぶ。

2 到達目標

- ・各関節の機能や具体的な運動例を説明できる。
- ・関節可動域，MMT を説明できる。
- ・肩甲上腕リズム，膝の終末回旋運動などを各部位の特徴的な運動を説明できる。

3 授業の方法

- ・教科書，配布資料をもとに講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

講義内容を理解するにあたっては，解剖学や生理学で学習した内容とのかかわりが深い。講義項目に該当する部分をあらかじめ復習すること。

7 使用教材，教具

「リハビリテーション医学」，「解剖学」，「生理学」医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

運動学は，解剖学や生理学の知識を基に，身体の動きに関して学習していきます。
日常生活における身体の動きが，どのようにして行われているのか理解することで
評価や施術につながりますので，しっかり学習しましょう。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 運動学 ）

回数	授業内容
1	総論 関節の構造と運動，運動路と感覚
2	姿勢と運動のコントロール（１）運動学の基礎
3	姿勢と運動のコントロール（２）重心と重心線，異常姿勢
4	姿勢と運動のコントロール（３）脊髄反射，姿勢反射
5	身体各部の機能（１）脊柱
6	身体各部の機能（２）胸郭
7	身体各部の機能（３）骨盤
8	身体各部の機能（４）上肢
9	身体各部の機能（５）下肢
10	関節可動域の測定
11	徒手筋力テスト
12	歩行（１）歩行周期，歩行分析
13	歩行（２）異常歩行
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床医学総論 ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

臨床に必要な診察や検査および治療に関する医学的知識と技能について、講義を中心に学習する。

2 到達目標

様々な症状に対する問診・診察・検査・必要な処置の内容を理解して、患者の病態把握につなげることができる。

3 授業の方法

配布プリントを中心に、理解を深める補助として画像や図説を載せた資料を用いて授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各章の学習後に小テストを実施します。毎回の復習を心がけて下さい。

7 使用教材，教具

「臨床医学総論」医歯薬出版

「病気がみえるシリーズ」メディックメディア

8 学生へのメッセージ

私たち鍼灸師は「診断」をすることはできませんが、症状や所見から患者の状態を把握して鑑別診断を行う知識や技術は、臨床において重要です。将来、鍼灸師として活躍するためにも正しい知識を身につけて下さい。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床医学総論 ）

回数	授業内容
1	第1章 診察の概要 第2章 診察の方法（1）
2	第2章 診察の方法（2）
3	第3章 生命徴候／バイタルサインの診察（1）体温，脈拍
4	第3章 生命徴候／バイタルサインの診察（2）血圧
5	第3章 生命徴候／バイタルサインの診察（3）呼吸
6	第4章 全身の診察（1）顔貌，精神状態，言語，身体計測
7	第4章 全身の診察（2）体型・体格，栄養状態
8	第4章 全身の診察（3）姿勢と体位，歩行
9	第4章 全身の診察（4）皮膚，粘膜，皮下組織，爪の状態，リンパ節
10	第5章 局所の診察（1）頭部，顔面，眼，鼻，耳
11	第5章 局所の診察（2）口腔，頸部，胸部，乳房
12	第5章 局所の診察（3）肺・胸膜，心臓
13	第5章 局所の診察（4）腹部，背部
14	第5章 局所の診察（5）四肢
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第6章 神経系の診察（1）感覚の分類，伝導路について
18	第6章 神経系の診察（2）感覚検査法
19	第6章 神経系の診察（3）反射検査
20	第6章 神経系の診察（4）脳神経系の検査①
21	第6章 神経系の診察（5）脳神経系の検査②、髄膜刺激症状検査
22	第7章 運動機能検査（1）運動麻痺，筋肉の異常
23	第7章 運動機能検査（2）不随意運動，協調運動，起立と歩行
24	第7章 運動機能検査（3）関節可動域検査，徒手筋力検査法，日常生活動作
25	第7章 運動機能検査（4）徒手による整形外科的検査法①
26	第7章 運動機能検査（5）徒手による整形外科的検査法②
27	第8章 その他の診察 救急時，女性，小児，高齢者の診察
28	第9章 臨床検査法（1）一般検査
29	第9章 臨床検査法（2）血液生化学検査，生理学的検査および画像診断の概要
30	第11章 治療学 第12章 臨床心理
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床医学各論Ⅰ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

諸疾患について，成因，病態生理，症状，検査，治療を学習する。

2 到達目標

諸疾患の成因，病態生理，主な症状，主な検査，治療法，予後について，キーワードをあげて説明できる。

3 授業の方法

教科書，配布プリント，パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習時は，臨床医学各論の教科書だけではなく，解剖学・生理学・病理学・臨床医学総論の該当ページもよく読み，疾患の特徴を理解できるまで確認すること。

7 使用教材，教具

「臨床医学各論」医歯薬出版

「病気がみえるシリーズ」メディックメディア

「NHKきょうの健康」NHK出版

8 学生へのメッセージ

患者さんの施術をしていると，多くの病気の知識が必要であることを実感します。病気を知ることは，いい鍼灸施術にもつながるという担当教員の実体験も交えて，臨床に役に立ち，なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目表に戻る

科目名 (臨床医学各論 I)

回数	授業内容
1	第1章 感染症(1) 総論, 細菌感染症
2	第1章 感染症(2) ウイルス感染症, 性感染症, 寄生虫感染症
3	第2章 消化管疾患(1) 口腔疾患, 食道疾患
4	第2章 消化管疾患(2) 胃・十二指腸疾患
5	第2章 消化管疾患(3) 腸疾患, 腹膜疾患
6	第3章 肝・胆・膵疾患(1) 肝臓疾患
7	第3章 肝・胆・膵疾患(2) 胆道疾患, 膵臓疾患
8	第4章 呼吸器疾患(1) 感染性呼吸器疾患, 閉塞性呼吸器疾患
9	第4章 呼吸器疾患(2) 拘束性呼吸器疾患, その他の呼吸器疾患
10	第5章 腎・尿器疾患(1) 原発性糸球体腎炎, 腎不全
11	第5章 腎・尿器疾患(2) 感染症, 腫瘍性疾患, 結石症・尿路閉塞疾患
12	第5章 腎・尿器疾患(3) 前立腺疾患, その他
13	第6章 内分泌疾患(1) 下垂体疾患, 甲状腺疾患
14	第6章 内分泌疾患(2) 副甲状腺疾患, 副腎疾患, 膵内分泌疾患
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第7章 代謝・栄養疾患(1) 糖代謝異常, 脂質代謝異常
18	第7章 代謝・栄養疾患(2) 尿酸代謝異常, その他の代謝異常症
19	第8章 整形外科疾患(1) 総論, 関節疾患
20	第8章 整形外科疾患(2) 骨代謝性疾患・骨腫瘍,
21	第8章 整形外科疾患(3) 筋・腱疾患, 形態異常
22	第8章 整形外科疾患(4) 脊椎疾患, 脊髄損傷
23	第8章 整形外科疾患(5) 外傷
24	第8章 整形外科疾患(6) その他の整形外科疾患
25	第9章 循環器疾患(1) 動脈疾患(および静脈疾患), 血圧異常, 冠動脈疾患
26	第9章 循環器疾患(2) 心臓疾患(心不全, 心臓弁膜症)
27	第9章 循環器疾患(3) 心臓疾患(先天性心疾患, 不整脈, 心筋症, 心筋炎)
28	第10章 血液・造血器疾患(1) 赤血球疾患, 白血球疾患
29	第10章 血液・造血器疾患(2) リンパ網内系疾患, 出血性素因
30	循環器疾患 グループワーク(心不全, 心臓弁膜症, 心房細動, 心室細動)
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 病理学概論 ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

病気は患者にはもちろん健康人にとっても大きな関心事です。この病理学概論の授業は病気の基本的な概念を理解し、その病気の本態を認識し明らかにする手がかりになるものです。

2 到達目標

医療従事者として必要な病気についての基礎知識（疾病の種類・原因・形態・機序など）を学習し、人体と疾患の関係性について理解を深める。

3 授業の方法

配布プリントを中心に、理解を深める補助として画像を用いて講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各章の学習後に小テストを実施します。毎回の復習を心がけて下さい。

7 使用教材，教具

「病理学概論」医歯薬出版

「病気がみえる」メディックメディア

8 学生へのメッセージ

病理学とは「病気の理屈」を学ぶ教科です。理屈がわかるということは、理解できるということなので、本授業を通して病に対する興味知識を深めていきましょう。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 病理学概論 ）

回数	授業内容
1	第1章 病理学について
2	第2章 疾病の分類
3	第3章 病因（1）内因
4	第3章 病因（2）外因①
5	第3章 病因（3）外因②
6	第4章 循環障害（1）ヒトの循環系，充血・うっ血
7	第4章 循環障害（2）出血，血栓症，塞栓症
8	第4章 循環障害（3）梗塞、水腫・浮腫・脱水症
9	第4章 循環障害（4）ショック
10	第5章 退行性病変（1）萎縮
11	第5章 退行性病変（2）変性
12	第5章 退行性病変（3）生活習慣病
13	第5章 退行性病変（4）壊死と死
14	第6章 進行性病変（1）肥大と増殖
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第6章 進行性病変（2）創傷治癒
18	第7章 炎症（1）炎症の一般
19	第7章 炎症（2）炎症の分類（変質性炎）
20	第7章 炎症（3）炎症の分類
21	第8章 腫瘍（1）腫瘍の形態と構造，腫瘍細胞の特色
22	第8章 腫瘍（2）腫瘍の発生の諸段階，腫瘍の生体の及ぼす影響，発生原因
23	第8章 腫瘍（3）良性腫瘍
24	第8章 腫瘍（4）悪性腫瘍
25	第9章 免疫異常・アレルギー（1）液性免疫と細胞性免疫
26	第9章 免疫異常・アレルギー（2）アレルギーの分類
27	第9章 免疫異常・アレルギー（3）免疫不全，自己免疫異常
28	第10章 先天性異常（1）先天性異常総論
29	第10章 先天性異常（2）遺伝性疾患
30	第10章 先天性異常（3）染色体異常
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス(授業計画書)

科目名(リハビリテーション医学)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の概要

リハビリテーションの概要，障害の評価，治療法について学ぶ。

鍼灸師がリハビリテーションに携わる中で必要となる他業種との共通言語を理解する。

2 到達目標

- ・関節可動域，徒手筋力テストなどの評価法を覚える。
- ・装具，杖の目的・使用方法を覚える。
- ・I C I D HとI C Fを説明できるようになる。
- ・脊髄損傷の運動レベルと到達ADLの組合せを覚える。

3 授業の方法

資料を配布し，教科書に沿って授業を進めていく。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習

国家試験の過去問を解答し，配布資料，教科書を活用して解説をつくる。

7 使用教材，教具

東洋療法学校協会編「リハビリテーション医学」（第4版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

リハビリテーションというと鍼灸師の仕事と関係なさそうですが，病院などでは鍼灸師以外の職種とチームとして患者さんに関わっていきます。チームの中で鍼灸師にできること，他の職種が得意とすることを理解しておくことが，患者さんの回復に反映されます。難しい内容もありますが，積極的に学びましょう。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(リハビリテーション医学)

回数	授業内容
1	リハビリテーションの概要
2	医学的リハビリテーションの概要
3	障害の評価
4	リハビリテーション治療
5	脳卒中のリハビリテーション
6	脊髄損傷のリハビリテーション
7	切断のリハビリテーション
8	小児のリハビリテーション
9	呼吸器のリハビリテーション
10	循環器のリハビリテーション
11	運動器のリハビリテーション① 肩関節周囲炎，変形性関節症
12	運動器のリハビリテーション② 腰痛症，関節リウマチ，骨折
13	神経疾患のリハビリテーション① パーキンソン病
14	神経疾患のリハビリテーション② 末梢神経障害
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅴ（東洋医学概論Ⅱ） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

症状や所見をもとに、どのように証を立て、どのように治療するのかを学ぶ。
東洋医学における様々な治療方法について学ぶ。

2 到達目標

- ・ 四診の重要性を理解し、症状から弁証を立てられるようになる。
- ・ 各種弁証法を理解し、対応する治法を答えられるようになる。

3 授業の方法

教科書・配布プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書・配布プリントでの予習・復習を行う。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

1年で習ったことを生かして、症状や所見から証を立てることができます。証に対応する治法が分かれば、どうすれば良くなるのかを考えることができます。いよいよ、患者さんを治療するために必要な理論を学ぶことになるので、しっかりと1年の復習をして授業に臨んでください。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅴ（東洋医学概論Ⅱ） ）

回数	授業内容
1	第5章 弁証（1）八綱弁証
2	第5章 弁証（2）気血津液弁証 津液精病証
3	第5章 弁証（3）臓腑弁証 胆病証
4	第5章 弁証（4）臓腑弁証 脾病証
5	第5章 弁証（5）臓腑弁証 肺大腸病証
6	第5章 弁証（6）臓腑弁証 複合病証
7	第5章 弁証（7）経絡弁証 奇経八脈病証
8	第5章 弁証（8）六淫弁証 燥熱淫症候
9	第5章 弁証（9）衛気営血弁証・三焦弁証
10	第5章 論治（1）治法 治法八法
11	第5章 論治（2）治法 臓腑の治法
12	第5章 論治（3）治療法 補瀉
13	第5章 論治（4）治療法 難経六十八難
14	第5章 論治（5）治療法 灸法・湯液・導引
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第2章 生理と病理（1）五臓の相互関係
18	第2章 生理と病理（2）伝変と波及 生理物質
19	第2章 生理と病理（3）伝変と波及 臓腑 脾肺腎
20	四択問題演習（1）精・気・血・津液と神の生理
21	四択問題演習（2）経絡論
22	四択問題演習（3）病理・病証
23	四択問題演習（4）治療法
24	弁証論治トレーニング（1）頭痛
25	弁証論治トレーニング（2）顔面痛
26	弁証論治トレーニング（3）関節痛
27	弁証論治トレーニング（4）頸肩腕痛～肩関節痛
28	弁証論治トレーニング（5）腰下肢痛～膝痛
29	弁証論治トレーニング（6）胸痛
30	弁証論治トレーニング（7）腹痛
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅵ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

1年生で学んだ生体物質や臓腑の働きをもとに、それぞれの相互関係や伝変と波及について学ぶ。

国家試験の過去問題を使って問題演習を行う。

2 到達目標

- ・五臓の相互関係を理解し、その生理と病理を説明できるようになる。
- ・伝変と波及の過程を、各臓腑から3つずつ説明できるようになる。
- ・国家試験の出題傾向を把握し、四択問題に慣れる。

3 授業の方法

教科書・配布プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書，配布プリントでの予習・復習，国家試験過去問集での復習を行う。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

これまで、生体物質や臓腑の生理と病理について学びました。次のステップは、それぞれの相互関係について理解することです。これができると、患者さんの身体で何が起きているのかを頭の中で整理しながら、推測することができるようになります。東洋医学を使って治療するうえでとても重要なスキルなので、この授業で少しでも身につけましょう。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目表に戻る

科目名 (基礎はりきゅう学Ⅵ)

回数	授業内容
1	第5章 弁証（1）概説
2	第5章 弁証（2）気血津液弁証 気血病証
3	第5章 弁証（3）臓腑弁証 肝病証
4	第5章 弁証（4）臓腑弁証 心小腸病証
5	第5章 弁証（5）臓腑弁証 胃病証
6	第5章 弁証（6）臓腑弁証 腎膀胱病証
7	第5章 弁証（7）経絡弁証 十二経脈病証
8	第5章 弁証（8）六淫弁証 風寒湿淫症候
9	第5章 弁証（9）六経弁証
10	第5章 論治（1）治則
11	第5章 論治（2）治法 生理物質の治法
12	第5章 論治（3）治法 外感病の治法・症候に対する治法
13	第5章 論治（4）治療法 要穴
14	第5章 論治（5）治療法 古代九鍼・古代刺法
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第2章 生理と病理（1）気機の相互関係
18	第2章 生理と病理（2）六腑の協調関係
19	第2章 生理と病理（3）伝変と波及 臓腑 肝心
20	四択問題演習（1）陰陽論・五行論
21	四択問題演習（2）蔵象論
22	四択問題演習（3）病因論
23	四択問題演習（4）東洋医学的診察法と証の立て方
24	弁証論治トレーニング（1）頭痛
25	弁証論治トレーニング（2）顔面痛
26	弁証論治トレーニング（3）関節痛
27	弁証論治トレーニング（4）頸肩腕痛～肩関節痛
28	弁証論治トレーニング（5）腰下肢痛～膝痛
29	弁証論治トレーニング（6）胸痛
30	弁証論治トレーニング（7）腹痛
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅰ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

臨床では様々な疾患に対応しますが、そこで鍼灸治療が適不適かの判断が重要となります。本授業では実技を交えて、特に西洋医学的な観点から各疾患の鑑別を学習します。

2 到達目標

- ・ 鍼灸治療の適応・不適応について学び、判断することができる。
- ・ 主要症候の現代医学的な考え方や治療法を理解し、実践することができる。

3 授業の方法

教科書，配布プリントで授業を行う。主要疾患における現代医学的鍼灸治療を学び，治療穴の取穴・刺鍼・施灸を行う。

4 成績評価方法・基準

レポート 50%、実技 50%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内で学んだ内容について実技を取り入れるため、自宅でも刺鍼と施灸の反復練習は継続して下さい。

7 使用教材，教具

東洋療法学校協会編「東洋医学臨床論」南江堂

8 学生へのメッセージ

1つの症候に対して、西洋医学的にも東洋医学的にも判断できる柔軟性を持つことが重要です。治療院で患者が来院したときに、適切な鍼灸治療ができるような技術と知識を習得してほしいと思います。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目表に戻る

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 現代医学的治療原則について
2	主要症候に対する鍼灸療法 頭痛（現代医学的考え方）
3	主要症候に対する鍼灸療法 頭痛に対する鍼灸治療 4 5 分
4	主要症候に対する鍼灸療法 顔面痛（現代医学的考え方）
5	主要症候に対する鍼灸療法 顔面痛に対する鍼灸治療
6	主要症候に対する鍼灸療法 顔面麻痺（現代医学的考え方） 4 5 分
7	主要症候に対する鍼灸療法 顔面麻痺に対する鍼灸治療
8	主要症候に対する鍼灸療法 歯痛（現代医学的考え方）
9	主要症候に対する鍼灸療法 歯痛に対する鍼灸治療 4 5 分
10	主要症候に対する鍼灸療法 眼精疲労（現代医学的考え方）
11	主要症候に対する鍼灸療法 眼精疲労に対する鍼灸治療
12	主要症候に対する鍼灸療法 鼻汁，鼻閉（現代医学的考え方） 4 5 分
13	主要症候に対する鍼灸療法 鼻汁，鼻閉に対する鍼灸治療
14	主要症候に対する鍼灸療法 脱毛症（現代医学的考え方）
15	主要症候に対する鍼灸療法 脱毛症に対する鍼灸治療 4 5 分
16	主要症候に対する鍼灸療法 めまい，耳鳴り，難聴（現代医学的考え方）
17	主要症候に対する鍼灸療法 めまい，耳鳴り，難聴に対する鍼灸治療
18	主要症候に対する鍼灸療法 咳嗽（現代医学的考え方） 4 5 分
19	主要症候に対する鍼灸療法 咳嗽と喘息に対する鍼灸治療
20	主要症候に対する鍼灸療法 胸痛（現代医学的考え方）
21	主要症候に対する鍼灸療法 胸痛に対する鍼灸治療 4 5 分
22	主要症候に対する鍼灸療法 悪心と嘔吐，腹痛，（現代医学的考え方）
23	主要症候に対する鍼灸療法 悪心と嘔吐，腹痛，便秘，下痢に対する鍼灸治療
24	主要症候に対する鍼灸療法 便秘，下痢（現代医学的考え方） 4 5 分
25	主要症候に対する鍼灸療法 便秘，下痢に対する鍼灸治療
26	主要症候に対する鍼灸療法 気分障害（現代医学的考え方）
27	主要症候に対する鍼灸療法 気分障害に対する鍼灸治療 4 5 分
28	主要症候に対する鍼灸療法 認知症（現代医学的考え方）
29	主要症候に対する鍼灸療法 認知症に対する鍼灸治療
30	主要症候に対する鍼灸療法 月経異常（現代医学的考え方） 4 5 分
31	主要症候に対する鍼灸療法 不妊症（現代医学的考え方）
32	主要症候に対する鍼灸療法 月経異常，不妊症に対する鍼灸治療
33	主要症候に対する鍼灸療法 症例に対する相互施術（1） 4 5 分
34	主要症候に対する鍼灸療法 症例に対する相互施術（2）
35	主要症候に対する鍼灸療法 症例に対する相互施術（3）
36	主要症候に対する鍼灸療法 症例に対する相互施術（4） 4 5 分

[科目表に戻る](#)

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅱ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

- ・四診を使って所見を集め、寒熱や生体物質の状態を推測する。
- ・臨床検査法の種類と意義について学び、疾患の背景にある病態生理を理解していく。

2 到達目標

- ・病態の推測に必要な所見を集め、体中で何が起きているのかを考えられる。
- ・臨床検査結果の基準値を参照して、異常の有無を判断できる。

3 授業の方法

座学での講義と実技での検査法の学習。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

- ・教科書、配布資料を読み返し復習を行うこと。

7 使用教材、教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社、 「臨床医学総論」医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

- ・正確な病態把握のためには、所見を集めることが大切です。一年生で習ったことを生かして、寒熱や生体物質の状態を考えてみましょう。
- ・医療面接や身体診察に加え、臨床検査結果の数値で客観的な判断もできるよう理解に努めて下さい。

9 教員氏名（ 山口 侃太, 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目表に戻る

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	四診（１）部分望診
2	四診（２）望診まとめ
3	四診（３）経穴診
4	四診（４）切診まとめ
5	四診（５）比較脈診の確認
6	四診（６）問診
7	四診（７）まとめ
8	病態把握（１）寒熱
9	病態把握（２）生理物質
10	病態把握（３）寒熱・生理物質まとめ
11	病態把握（４）臓腑
12	病態把握（５）まとめ
13	フィードバック
14	前期まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	一般検査（尿検査１）
18	一般検査（尿検査２）
19	一般検査（便検査）
20	血液検査（赤血球）
21	血液検査（白血球）
22	血液検査（血液凝固機能検査）
23	髄液検査
24	血液生化学検査（１）
25	血液生化学検査（２）
26	免疫血清検査
27	腫瘍マーカー
28	生理学的検査
29	画像診断（１）
30	画像診断（２）
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅳ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

授業で学習した四診を，学生ペアで実践する。
授業で学習した弁証論治を，模擬患者で実践する。

2 到達目標

- ・ 四診の意義と手法を理解し，正しく所見をとり，記録することができる。
- ・ 四診で得た所見から証を立て，対応する治法を導いて配穴を定め，安全に刺鍼と施灸ができるようになる。

3 授業の方法

全体への説明後，教員によるデモンストレーションを見学し，学生ペアで実技を行う。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書や配布プリントを，自宅での復習教材とし活用する。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

「新版 経絡経穴概論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

東洋医学的な施術をするためには，四診の習得が必須です。四診から弁証論治までの流れを実践することで，臨床のイメージも湧きますし，理論の復習にもなります。教科書と，授業で配布したプリントを熟読しながら実習に臨んでください。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目表に戻る

科目名（ はりきゅう実技Ⅳ ）

回数	授業内容
1	四診（１）舌診
2	四診（２）全身の望診
3	四診（３）四肢の切経
4	四診（４）腹診
5	四診（５）祖脈診・基本的な脈状診
6	四診（６）問診
7	四診（７）まとめ
8	所見の取り方（１）寒熱
9	所見の取り方（２）生理物質
10	所見の取り方（３）寒熱・生理物質まとめ
11	所見の取り方（４）臓腑
12	所見の取り方（５）まとめ
13	前期まとめ
14	実技試験
15	中医学の治療法（１）中国鍼・撚鍼法の紹介
16	中医学の治療法（２）囲刺・排刺・吸角の紹介
17	補瀉手技（１）開闔・迎随・呼吸の補瀉
18	補瀉手技（２）浅深・徐疾・揺動の補瀉
19	補瀉手技（３）提挿・捻転の補瀉
20	弁証論治（１）オリエンテーション
21	弁証論治（２）血虚による眼精疲労
22	弁証論治（３）気滞による気分障害
23	弁証論治（４）痰湿によるめまい
24	弁証論治（５）心火亢盛による動悸
25	弁証論治（６）脾気虚による食欲不振
26	弁証論治（７）肝胃不和による悪心・嘔吐
27	弁証論治（８）胃火上炎による便秘
28	弁証論治（９）腎陽虚による下痢
29	後期まとめ
30	実技試験
31	弁証論治トレーニング（１）血圧異常
32	弁証論治トレーニング（２）睡眠障害

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅴ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

前期 諸疾患について学び、現代的鍼灸施術の適・不適を見極める力をつける。

後期 鍼灸施術を行うために必要な医療面接技法を習得する。

2 到達目標

- ・ 諸疾患の現代的な鍼灸施術の目的を説明したうえで、安全に施術ができる。
- ・ 適切な医療面接を行い、病態把握、必要な検査、治療計画を立案できる。

3 授業の方法

前期：教科書を使用し講義を行い、疾患に対する施術の実技を行う。

後期：パワーポイント、配布資料により講義を行い、医療面接と相互実習を行う。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

施術に必要な検査・経絡経穴の予習，後期は授業後に診療録を作成・提出する。

7 使用教材，教具

「臨床医学各論」「臨床医学総論」（医歯薬出版）

「東洋医学臨床論はりきゅう編」（南江堂），「新版経絡経穴概論」（医道の日本社）

8 学生へのメッセージ

1年次に習得した知識・技術をもとに、効果的で安全な鍼灸施術を行えるようになっていきましょう。担当教員の実体験も交えて、臨床に役に立ち、なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ はりきゅう実技Ⅴ ）

回数	授業内容
1	現代学的アプローチ（１） 動悸・息切れ
2	現代学的アプローチ（２） 血圧異常
3	現代学的アプローチ（３） 睡眠障害
4	現代学的アプローチ（４） 食欲不振
5	現代学的アプローチ（５） 肥満
6	現代学的アプローチ（６） やせ（るい瘦）
7	現代学的アプローチ（７） 疲労と倦怠感
8	現代学的アプローチ（８） 発熱
9	現代学的アプローチ（９） 冷え
10	現代学的アプローチ（１０） のぼせ
11	現代学的アプローチ（１１） 浮腫
12	現代学的アプローチ（１２） 掻痒感（痒み），肌荒れ，発疹
13	現代学的アプローチ（１３） 口渇
14	現代学的アプローチ（１４） 試験練習
15	実技試験
16	試験解説，フィードバック
17	医療面接とは，DVD
18	医療面接の流れ
19	医療面接とコミュニケーション
20	医療面接の質問法，面接技法
21	医療面接の役割と目的，面接で聞く内容（７項目，十問診）
22	相互実習（１）①現病歴を聞いて書く
23	相互実習（２）②推測する疾患・病態，必要な検査，追加で聴取すること
24	相互実習（３）③検査，治療計画
25	相互実習（４）ペア交代して①②
26	相互実習（５）ペア交代して③④
27	相互実習（６）提出物フィードバック，試験練習
28	相互実習（７）ペア交代して①②
29	相互実習（８）ペア交代して③④
30	相互実習（９）提出物フィードバック，試験練習
31	実技試験
32	試験解説，フィードバック

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅵ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

- ・体表解剖を学び、正確な触察法を習得する。
- ・低周波鍼通電療法を学び、運動器への刺鍼技術の向上を目指す。

2 到達目標

- ・骨、筋、血管、末梢神経の走行を把握し、正確な触察ができる。
- ・適切な患部の露出、必要なタオルワーク、安全な刺鍼・通電ができる。
- ・目的の筋への通電、施術前後の評価ができる。

3 授業の方法

- ・担当教員は講義とデモンストレーションを行う。
- ・実技に関する留意点については個別指導により細やかな指導を行っていく。
- ・実技後は必ず、担当教員のチェックを受け自身の到達度を確認する。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配布するプリントを自宅での予習・復習教材として活用すること。

7 使用教材，教具

東洋療法学校協会編「解剖学」（第2版）医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

授業の予習や復習を繰り返し、授業中も時間が許される限り、何度も練習してください。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ／ 樋口 裕二郎 ）

所 属（ 伊藤：こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

（ 樋口：こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目表に戻る

科目名（ はりきゅう実技Ⅵ ）

回数	授業内容
1	鍼通電療法総論 理論と安全管理
2	三角筋の触診，筋パルス
3	棘上筋・棘下筋の触診，筋パルス
4	小円筋・大円筋の触診，筋パルス
5	上腕二頭筋の触診，筋パルス
6	円回内筋の触診，筋パルス
7	腕橈骨筋の触診，筋パルス
8	長・短橈側手根伸筋の触診，筋パルス
9	短母指伸筋・長母指外転筋の触診，筋パルス
10	僧帽筋の触診，筋パルス
11	肩甲挙筋の触診，筋パルス
12	頭板状筋の触診，筋パルス
13	菱形筋の触診，筋パルス
14	試験前実技練習
15	前期試験
16	解説・前期まとめ
17	大腿四頭筋の触診，筋パルス
18	前脛骨筋の触診，筋パルス
19	長・短腓骨筋の触診，筋パルス
20	下腿三頭筋の触診，筋パルス
21	ハムストリングスの触診，筋パルス
22	大殿筋の触診，筋パルス
23	中殿筋の触診，筋パルス
24	大腿筋膜張筋の触診，筋パルス
25	脊柱起立筋の触診，筋パルス
26	半棘筋の触診，筋パルス
27	多裂筋の触診，筋パルス
28	梨状筋の触診，筋パルス
29	試験前実技練習①
30	試験前実技練習②
31	後期試験
32	解説・後期まとめ

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう臨床実習Ⅱ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

基本的な患者対応や施術所における業務（診察準備，受付業務，患者誘導，施術，手技療法など）を体験する。また経絡や経穴の取穴や施術方法を確認していく。

2 到達目標

- ・態度・習慣 施術所の診療形態を理解し，臨床スタッフとしての行動ができる。
- ・情報収集・記録 見学したことの理解を深めるために自ら調べ，記録できる。
- ・施術へのアプローチ 安全性・清潔操作に配慮できる。使用経穴や部位を把握できる。

3 授業の方法

施術所での患者対応を想定して体験型実習を行う。

4 成績評価方法・基準

実習中の継続評価，日誌，見学記録，実習参加シートをもとに総合的に評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習記録は1回終了するたびに記入すること。また，実習中にわからないことや疑問に思うことがあれば，自ら調べ，質問すること。

7 使用教材，教具

「はりきゅう実技基礎編」（医道の日本社）

「マンガ 鍼灸臨床インシデント増補改訂版」山下仁 監修・解説（医道の日本社）

8 学生へのメッセージ

卒業後の施術所勤務または開業を念頭に置いて臨み，将来の鍼灸師像を描く糧にしましょう。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある臨床実習指導者による実務的教育の授業

科目表に戻る

科目名（ はりきゅう臨床実習Ⅱ ）

回数	授業内容
1	施術所の運営および施術の体験・練習（1）
2	施術所の運営および施術の体験・練習（1）
3	施術所の運営および施術の体験・練習（1） 4 5 分
4	施術所の運営および施術の体験・練習（2）
5	施術所の運営および施術の体験・練習（2）
6	施術所の運営および施術の体験・練習（2） 4 5 分
7	施術所の運営および施術の体験・練習（3）
8	施術所の運営および施術の体験・練習（3）
9	施術所の運営および施術の体験・練習（3） 4 5 分
10	施術所の運営および施術の体験・練習（4）
11	施術所の運営および施術の体験・練習（4）
12	施術所の運営および施術の体験・練習（4） 4 5 分
13	施術所の運営および施術の体験・練習（5）
14	施術所の運営および施術の体験・練習（5）
15	施術所の運営および施術の体験・練習（5） 4 5 分
16	施術所の運営および施術の体験・練習（6）
17	施術所の運営および施術の体験・練習（6）
18	施術所の運営および施術の体験・練習（6） 4 5 分
19	施術所の運営および施術の体験・練習（7）
20	施術所の運営および施術の体験・練習（7）
21	施術所の運営および施術の体験・練習（7） 4 5 分
22	施術所の運営および施術の体験・練習（8）
23	施術所の運営および施術の体験・練習（8）
24	施術所の運営および施術の体験・練習（8） 4 5 分
25	施術所の運営および施術の体験・練習（9）
26	施術所の運営および施術の体験・練習（9）
27	施術所の運営および施術の体験・練習（9） 4 5 分

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう臨床実習Ⅲ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

臨床実習施設で、基本的な患者対応や施術所における業務（診察準備，受付業務，患者誘導，施術，手技療法など）を見学し，一部を模倣・実践する。

2 到達目標

- ・態度・習慣 患者に対して適切な対応ができる。
- ・情報収集・記録 医療面接を実施し，SOAP形式で記録できる。
- ・施術へのアプローチ 指導者が指示した経穴および部位を触知できる。

3 授業の方法

実際に運営されている施術所で，体験型実習を行う。

4 成績評価方法・基準

実習中の継続評価，日誌，見学記録，実技試験をもとに総合的に評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習記録は1回終了するたびに記入すること。また，実習中にわからないことや疑問に思うことがあれば，自ら調べ，質問すること。

7 使用教材，教具

「はりきゅう実技基礎編」医道の日本社）

「マンガ 鍼灸臨床インシデント増補改訂版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

将来の施術所勤務または開業を念頭に置いて臨みましょう。また，患者や他職種の方々とも積極的に関わり，将来の鍼灸師像を描く糧にしましょう。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある臨床実習指導者による実務的教育の授業

科目表に戻る

科目名（ はりきゅう臨床実習Ⅲ ）

回数	授業内容
1	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（1）
2	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（1）
3	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（1） 4 5 分
4	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（2）
5	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（2）
6	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（2） 4 5 分
7	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（3）
8	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（3）
9	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（3） 4 5 分
10	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（4）
11	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（4）
12	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（4） 4 5 分
13	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（5）
14	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（5）
15	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（5） 4 5 分
16	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（6）
17	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（6）
18	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（6） 4 5 分
19	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（7）
20	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（7）
21	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（7） 4 5 分
22	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（8）
23	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（8）
24	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（8） 4 5 分
25	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（9）
26	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（9）
27	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（9） 4 5 分

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合領域Ⅱ（病態生理学） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

鍼灸師にとって、体のしくみや働きを知り、異常がなぜ起こってどのような症状を引き起こしながら病気になっていくのかを知ることが大変重要である。病態生理学は、病気が引き起こされる機序や経過を理解するための学問であり、鍼灸治療で効果を出せるかどうかの鑑別判断をするために欠かせない知識である。
担当教員の実務経験を基に臨床に必要な病態生理を学んでいく。

2 到達目標

鍼灸臨床にとって必要な主要症候の病態生理を理解し、鍼灸治療の適否を判断できる。

3 授業の方法

教科書、配布プリント、パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

レポート 100%（後期の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習時は関係科目の教科書や配布資料もよく読み、病態生理のイメージができるまで確認すること。

7 使用教材、教具

「臨床医学各論」「解剖学」「生理学」「病理学」「臨床医学総論」（医歯薬出版株式会社）

8 学生へのメッセージ

病態生理の理解には、関係科目の解剖学や生理学、病理学、臨床医学各論、臨床医学総論の知識が必要です。復習しながら理解を深めていきましょう。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目表に戻る

科目名（ 総合領域Ⅱ（病態生理学） ）

回数	授業内容
1	授業説明
2	感染症の病態生理（１）成因と感染経路，炎症の病態生理
3	感染症の病態生理（２）細菌感染症
4	感染症の病態生理（３）ウイルス感染症
5	感染症の病態生理（４）食中毒，悪心，嘔吐，下痢
6	感染症の病態生理（５）性感染症
7	感染症の病態生理（６）まとめ
8	消化管疾患の病態生理（１）消化管とは（口腔から肛門まで）
9	消化管疾患の病態生理（２）症状（嘔吐，腹痛，吐血，下血，下痢，便秘）
10	消化管疾患の病態生理（３）口腔疾患，食道，胃・十二指腸疾患
11	消化管疾患の病態生理（４）大腸疾患，腹膜疾患
12	消化管疾患の病態生理（５）腹膜疾患
13	肝疾患の病態生理（１）肝機能障害と症状
14	肝疾患の病態生理（２）肝炎，肝硬変，肝癌，脂肪肝の症状と機序
15	胆道疾患の病態生理（１）胆道の機能障害と症状（黄疸）
16	胆道疾患の病態生理（２）胆石，胆嚢炎，胆嚢癌，総胆管癌の症状と機序
17	膵臓疾患の病態生理（１）膵臓の機能障害と症状
18	呼吸器疾患の病態生理（１）呼吸器の構造と機能
19	呼吸器疾患の病態生理（２）感染性呼吸器疾患
20	呼吸器疾患の病態生理（３）閉塞性呼吸器疾患
21	呼吸器疾患の病態生理（４）拘束性呼吸器疾患
22	腎・尿器疾患の病態生理（１）腎・尿器の構造と機能，尿検査，血液生化学検査
23	腎・尿器疾患の病態生理（２）脱水，浮腫，カリウム代謝異常
24	腎・尿器疾患の病態生理（３）感染症，腎・尿管結石症と痛み
25	腎・尿器疾患の病態生理（４）前立腺肥大症，前立腺癌
26	内分泌疾患の病態生理（１）内分泌の解剖整理
27	内分泌疾患の病態生理（２）下垂体疾患，甲状腺疾患
28	内分泌疾患の病態生理（３）副腎疾患，副甲状腺疾患
29	前期まとめ（１）感染症，消化管疾患
30	前期まとめ（２）肝胆膵疾患，呼吸器疾患
31	前期まとめ（３）腎・尿器疾患
32	前期まとめ（４）内分泌疾患
33	代謝・栄養疾患の病態生理（１）糖代謝異常
34	代謝・栄養疾患の病態生理（２）脂質代謝異常
35	代謝・栄養疾患の病態生理（３）尿酸代謝異常

[科目表に戻る](#)

36	代謝・栄養疾患の病態生理（４）その他の代謝異常
37	整形外科疾患の病態生理（１）関節炎
38	整形外科疾患の病態生理（２）変形性関節症
39	整形外科疾患の病態生理（３）骨代謝性疾患
40	整形外科疾患の病態生理（４）骨腫瘍，筋・腱疾患
41	整形外科疾患の病態生理（５）形態異常
42	整形外科疾患の病態生理（６）脊椎疾患（ヘルニア，分離・すべり症）
43	整形外科疾患の病態生理（７）脊椎疾患（変形性脊椎症，脊柱管狭窄症）
44	整形外科疾患の病態生理（８）脊椎疾患（腰痛，頸椎捻挫）
45	整形外科疾患の病態生理（９）脊髄損傷
46	整形外科疾患の病態生理（１０）骨折，脱臼，捻挫
47	整形外科疾患の病態生理（１１）スポーツ外傷・傷害
48	整形外科疾患の病態生理（１２）胸郭出口症候群，頸肩腕症候群
49	循環器疾患の病態生理（１）動脈および静脈疾患
50	循環器疾患の病態生理（２）血圧異常
51	循環器疾患の病態生理（３）冠動脈疾患
52	循環器疾患の病態生理（４）心不全
53	循環器疾患の病態生理（５）心臓弁膜症
54	循環器疾患の病態生理（６）先天性心疾患
55	循環器疾患の病態生理（７）不整脈
56	循環器疾患の病態生理（８）心筋症
57	血液・造血器疾患の病態生理（１）貧血
58	血液・造血器疾患の病態生理（２）白血病
59	血液・造血器疾患の病態生理（３）悪性リンパ腫
60	血液・造血器疾患の病態生理（４）出血性素因
61	後期まとめ（１）代謝・栄養疾患
62	後期まとめ（２）整形外科疾患
63	後期まとめ（３）循環器疾患
64	後期まとめ（４）血液・造血器疾患